

公園内で見られる植物

写真は7月7日(土)

8月25日(土)

自然観察会で見られた植物です



サンゴジュ (レンプクソウ科)

常緑小高木。日の当たる場所で育てますが、ある程度の日陰にも耐え、大気汚染や潮風にも適応できる樹木です。垣根などとしてよく見かけます。木に水分が多く含油率が少ない為、防火林として利用されるそうです。花の付きはネズミモチによく似ていますが実はネズミモチは黒く、サンゴジュは赤く実ります。



リョウブ (リョウブ科)

別名ハタツモリは今の時期の事を示したものかと思います。百千万の旗を翻したように白い花があでやかに咲き揃い遠くからでも旗のように目立ちます。但し、リョウブは「令法」と書き、「令」は基準量を示すため、ハタは畑の事で、ツモリは予め見積もった量の事ではないかと？なぜならリョウブは古くから飢饉にそなえて法令で定め、田畑に一定の量のリョウブを植えさせ、貯蔵させたとの事。



クサギ (シソ科)

葉に触ると独特の臭いがあるのでこの名が付いたようですが、花も実も見た目にきれいだし、花は甘い香りがするので、嫌な印象の名前はかわいそうだといつも思っています。果実は草木染に使うと媒染剤なしで、空色に染める事ができ、赤い萼からは鉄媒染で渋い灰色に染まるそうです。



イヌシデ (カバノキ科)

四手 (紙垂) とは、しめ縄などに付いている細長く切って折った紙の事で、果穂を四手に見立て、この名が付いたようです。「イヌ」は一般的に役に立たないもの、あるいは毛の多いものをさします。イヌシデは燃えにくく薪に適さなかったので、この名が付いたのでしょうか？他のシデ類との比較には側脈の数によって判断されます。



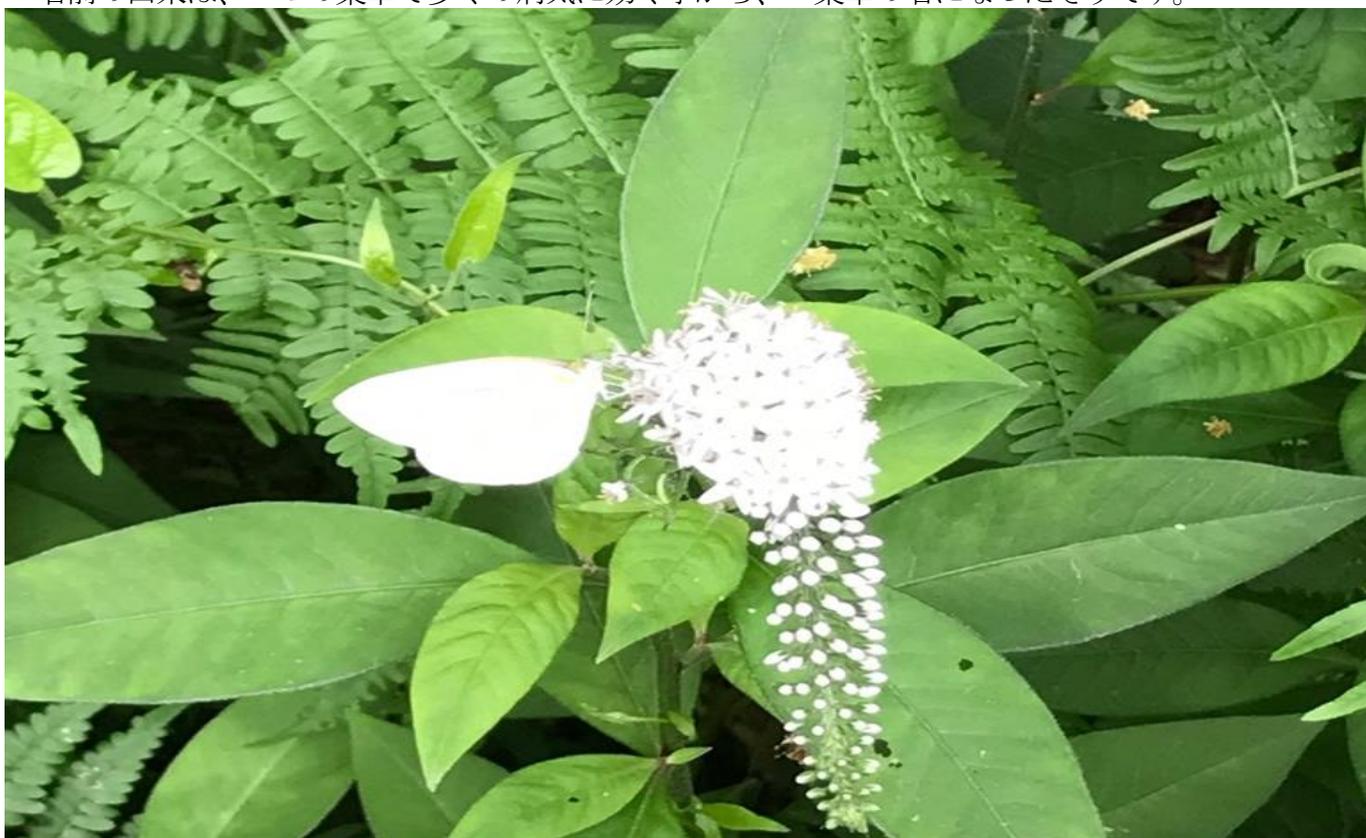
ガクアジサイ (ユキノシタ科)

花の少ない時期なので、ひときわ目を引きました。青色の花びらのように見えるのは萼片で、飾り花と言い、中の小さな点々の集まりが花です。どうしてこのような形状になったのか？不思議ですね。



イチヤクソウ (ツツジ科)

名前から薬草だとわかりますね。花の時期に全草を取り風通しの良い日陰で乾燥させると、鹿蹄草（ろくていそう）という生薬になるそうです。強心、降圧、抗菌など沢山の効能があるようです。名前の由来は、一つの薬草で多くの病気に効く事から、一薬草の名になったそうです。



オカトラノオ (サクラソウ科)

白色の小さな花穂の先端が虎の尾のように垂れ下がっている事から名前が付けました。海草の仲間のウミトラノオと区別するため、オカが付いています。日当たりの良い場所で一斉に同じ方向を向いて咲きます。



ウワミズザクラ (バラ科)

花が開く前の穂の時期に塩漬けにしてお茶として頂いたり、そのまま食べたり (山菜: アンニンゴ) していますが、実は初めて見ました。とてもきれいな実ですね。調べてみると赤い実でアンニンゴ酒を作ると紅色に、黒く熟した実で作ると濃い紫色の果実酒ができるそうです。



クヌギ (ブナ科)

「どんぐりコロコロどんぶりこ、お池にはまってさあたいへん！」丸い実を見ると童謡を思い出します。どんぐりは2年なりですが、写っているのは今年実ります。半分お椀型の殻斗に包まれ、顔を覗かせます。実は灰汁抜きをしないと食べられませんが、樹皮やどんぐりの殻はつるばみ染 (橡染め) の染料として使用されます。



エゴノキ (エゴノキ科)

果実にはエゴサポニンという成分があり、水の中でこすり合わせると沢山ではありませんが、石鹼のシャボン玉のような泡がでてきます。昔は魚を獲る時に果実（果皮の部分に毒がある）をすりつぶして毒流し漁に利用したそうです。種子はヤマガラの好物で、一度地中に埋めてから食べるのだそうです？土の上に落ちて果皮が無くなって、毒が消えるのかな？



ヤマボウシ (ミズキ科)

別名ヤマグワと言われるように、実は赤く熟すと食べられますが、私は中に数個種があり、甘さが少なく癖のある味なのであまり食べません。ヤマボウシの日本一の名所は箱根の芦ノ湖や駒ヶ岳周辺で、6月中旬に白い花が咲き乱れているそうです。葉の裏の脈液に、褐色っぽい毛ぞうがあります。